

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 八枝 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知りたいとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

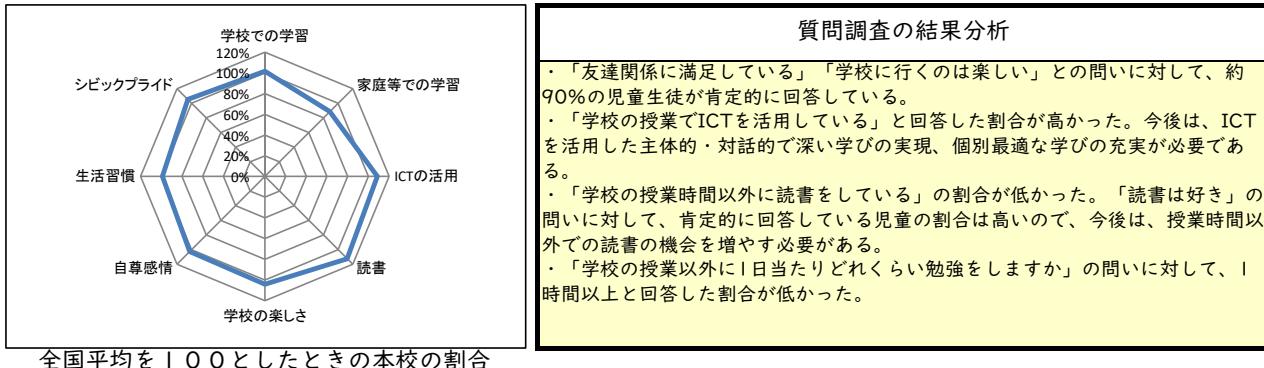
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国平均を上回っている。「情報の扱いに関する事項」では、全国平均を若干下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている	
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができ、全国平均を大きく上回っている。		
	努力が必要な問題	「話すこと・聞くこと」において、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることに課題がある。		
算数	全体的な傾向や特徴など	どの領域も全国平均を上回っている。「測定」の領域では全国平均を大きく上回り、「変化と関係」の領域では全国平均を若干上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている	
	よくできた問題	「測定」において、はかりの目盛りを正確に読むことができ、全国平均を大きく上回っている。		
	努力が必要な問題	「図形」において、拡大した図形の角の大きさについての理解に課題がある。		
理科	全体的な傾向や特徴など	「地球」を柱とする領域では、全国平均を上回っている。「エネルギー」を柱とする領域では全国平均を下回っている。また、記述式の問題は全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている	
	よくできた問題	「生命」を柱とする領域において、顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いている。		
	努力が必要な問題	「生命」を柱とする領域において、発芽条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだすことに課題がある。		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

単元で学んだ知識を他の学習や生活の場面でも活用できるように、自分の考えや学んだことを自分の言葉でまとめるに焦点を充実を図る。また、ICT機器を活用した主体的・対話的な授業の改善を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭と協力しながら、児童が課題意識をもち進んで家庭学習に取り組むように啓発していくとともに、主体的に自ら学びを深める子どもの育成を図る。